

ガレ・ガラスコレクション

エミール・ガレとナンシー派

Emile Gallé and the École de Nancy

エミール・ガレ (1846~1904) はフランス北東部のナンシーに生まれ、生涯この街を拠点にガラスや陶器、家具などの分野において類い稀なる才能を開花させました。文学や哲学、音楽、植物学、鉱物学など幅広いジャンルに精通し、またジャポニスムや象徴主義、自然主義といった時代の潮流とも呼応しながら独自の表現を深めていった彼の芸術は、19世紀末アール・ヌーヴォー芸術を代表

するものとして、今日もお私たちを魅了しつづけています。

本展ではこうしたガレのガラス作品に焦点をあて、当館で所蔵するコレクションを一堂に展覧いたします。またガレと関わりのある同時代の作家や、ドーム兄弟をはじめとするナンシー派の作家たちの作品もあわせてご紹介します。古都ナンシーに結実したガラス芸術の世界をおたのしみください。

◆エミール・ガレ

1846年、フランス北東部の街ナンシーに生まれたエミール・ガレは、高級食器の製造販売業を営む父のもと、早くから工芸への関わりを深めました。ワイマールの建築工芸学校に学んだ後、帰郷して家業を引き継ぎ、1860年代後半から創作に携わるようになります。

初期のガレは、東方趣味やロココ趣味など多様な作風を試みました。やがて1878年パリ万国博覧会で公に作品が認められたガレは、とりわけエナメル絵付けの手法により賞賛されます。当館コレクションにおいても、虫や草花などのモチーフを、あるときは優美に、またあるときはユーモラスに描いた細やかなエナメ

ル彩を多くみることができます。

1880年代半ば以降、ガレはより独創的な作品を生みだすようになります。その背景には、自然主義や象徴主義などの思潮とともに、日本美術品の収集や高島北海との交友など、日本との関わりも影響を与えたと考えられています。1889年パリ万国博覧会のガラス部門でグランプリを受賞するなど、ガレは時代を代表する工芸作家へと飛躍しました。

生涯を通じてガレの作品には、植物や小さな生き物をモチーフとしたものが多くみられます。熱心な植物学者でもあったガレは、真摯なまなざしで自然を見つめ、その生命を封じ込めるようにして、数々のガラス器を生み出したのです。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
1	エミール・ガレ	鯉文花器	1878頃	ガラス：型吹き、エナメル彩、金彩
2	フランソワ・ウジェーヌ・ルソー	竹筒形花器	1880頃	ガラス：金属酸化物による班文、金箔封入、型吹き
3	フランソワ・ウジェーヌ・ルソー	菊文鉢	1880年代	ガラス：金属酸化物による班文、金箔封入、エッチング、カット
4	フランソワ・ウジェーヌ・ルソー	鯉文花器	1884頃	ガラス：型吹き、金箔封入、金属酸化物による発色、クラクレ
5	エミール・ガレ	花文花器	1880頃	ガラス：マルケトリ、金属酸化物による班文、金彩、エナメル彩
6	エミール・ガレ	蜻蛉文花器	1880年代	ガラス：エナメル彩、金彩
7	エミール・ガレ	カマキリ文皿	1880年代	ガラス：宙吹き、エナメル彩、金彩
8	エミール・ガレ	カマキリ文花器	1880年代	ガラス：エナメル彩、金彩
9	エミール・ガレ	昆虫文双耳花器	1880年代	ガラス：エナメル彩、金彩、金箔溶着
10	エミール・ガレ	アザミ文リキュールセット	1880年代	ガラス：宙吹き、型吹き、エナメル彩、金彩
11	ブルグン、シュヴェーラー工房	人物文双耳花器	19世紀後半	ガラス：被せガラス、金属箔封入、エッチング
12	ブルグン、シュヴェーラー工房	鳥に葉文手付瓶	19世紀後半	ガラス：エナメル彩、金彩
13	エミール・ガレ	貝殻湖水文花器	1889頃	ガラス：エナメル彩
14	エミール・ガレ	草花文花器	1890年代	ガラス：被せガラス、エッチング

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法／技法・材質
15	エミール・ガレ	花器	1890頃	ガラス
16	エミール・ガレ	紫陽花文花器	1890年代	ガラス：被せガラス、エッチング
17	高島 北海	四季山水図	1919～23 (大正8～12)	紙本墨画淡彩・紙(四幅対)
18	エミール・ガレ	虫文花器	1889	ガラス：被せガラス、型吹き、エングレーヴィング、マルトレ
19	エミール・ガレ	ティーカップ	1887頃	ガラス：金彩、エナメル彩
20	エミール・ガレ	ティーカップ	1890頃	ガラス：エナメル彩
21	エミール・ガレ	ワイングラス	1890頃	ガラス：エッチング、金彩、エナメル彩、色ガラス溶着
22	エミール・ガレ	昆虫に草花文グラス	1890年代	ガラス：金彩、エナメル彩
23	エミール・ガレ	花文花器	1890年代	ガラス：エッチング、エナメル彩
24	エミール・ガレ	アザミ文花器	1890頃	ガラス：エナメル彩、カボション
25	エミール・ガレ	木の実文鉢	1890頃	ガラス：エッチング、エナメル彩
26	エミール・ガレ	百合文香水瓶	1890年代	ガラス：被せガラス、エッチング、エングレーヴィング
27	エミール・ガレ	蓮文花器	1897～98頃	ガラス：被せガラス、金属酸化物による斑文、エッチング、エングレーヴィング
28	エミール・ガレ	雪中竹に鷹文花器	1897～1900頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング、エナメル彩、金彩
29	エミール・ガレ	浜木綿文花器	1900頃	ガラス：エッチング、金彩、エナメル彩
30	エミール・ガレ	ガラス工場風景文花器	1900	ガラス：被せガラス、金属箔封入、型吹き、エッチング、エングレーヴィング
31	エミール・ガレ	カトレア文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、金属箔封入、型吹き、エッチング、エングレーヴィング
32	エミール・ガレ	アイリス文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、エングレーヴィング
33	エミール・ガレ	蓮文花器	1900	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング、エングレーヴィング
34	エミール・ガレ	紫陽花文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
35	エミール・ガレ	花文香水瓶	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング、エングレーヴィング
36	エミール・ガレ	斑文碗	1900頃	ガラス：金属酸化物による斑文
37	エミール・ガレ	蓮文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング
38	エミール・ガレ	蓮文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング
39	エミール・ガレ	蓮文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング
40	エミール・ガレ	シクラメン文碗	1898～1900頃	ガラス：被せガラス、型吹き、マルケトリ、エングレーヴィング
41	エミール・ガレ	南瓜文蓋物	1900頃	ガラス：型吹き、エッチング、エナメル彩、金彩
42	エミール・ガレ	ヤドリギ文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング
43	エミール・ガレ	花に蝶文ランプ	1900頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
44	エミール・ガレ	蜻蛉文花器	1900～04頃	ガラス：被せガラス、エッチング
45	エミール・ガレ	鳥文蓋物	1900～05頃	ガラス：被せガラス、エッチング
46	エミール・ガレ	蜂文花器	1900頃	ガラス：型吹き、エッチング、エナメル彩、金彩
47	エミール・ガレ	蜂文花器のための デッサン(5点)	1890頃	インク・紙

◆ナンシー派

パリから東へ約300km。ナンシーは、15世紀以来ロレーヌ公国の首都として繁栄した都市で、18世紀に築かれたロココ様式によるスタニスラス広場を中心とした美しい街並みで知られています。

このナンシーが位置するロレーヌ地方はドイツとの国境に近く、また地下資源が豊富なことから、しばしば領土争いの火種となってきました。1870年には普仏戦争が勃発、ガレも志願兵として参加しますが、翌年フランスはアルザス全体とロレーヌ北部をドイツに割譲することになります。

こうした歴史をもつ古都を舞台に、ナンシー派は花開きました。

19世紀末、ドイツのメーカーが進出してくるようになると、ガレはロレーヌ地方の職人やデザイナーたちの結束が必要であると考へ、1901年ナンシー派（地方産業美術協会）を設立し、会長に就任します。副会長には、ガレのライバルであるドーム兄弟の弟アントナンとその協力者ルイ・マジヨレルらが就任し、展覧会も開催しました。

ナンシー派の担い手たちは、ガレの自然主義的な装飾手法に基づきながら、ガラスや陶器、家具など、多分野にわたる作品を生みだしました。ガレの活躍は、ナンシーをパリと並ぶアール・ヌーヴォー芸術の重要な中心地となし、ゆたかな実りをもたらしたのです。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
48	ドーム	ロレーヌ十字文グラス	1893頃	ガラス：エッチング、エナメル彩、金彩
49	ドーム	アザミ文杯	1890～1900頃	ガラス：型吹き（縦溝文）、エナメル彩、金彩
50	ドーム	あざみ文花器	1890頃	ガラス、真鍮：金彩、銅彩
51	ドーム	あざみ文花器	1900頃	ガラス：斑文装飾、被せガラス、型吹き、エッチング、エングレーヴィング
52	ドーム	鷺に睡蓮文鉢	1890頃	ガラス：エッチング、金彩、エナメル彩
53	ドーム	鷺に睡蓮文三耳花器	1894頃	ガラス：型吹き、エッチング、エナメル彩、金彩
54	ドーム	草の実文花器	1900頃	ガラス：エナメル彩、斑文装飾、被せガラス、型吹き、エッチング
55	ドーム	マロニエ文花器	1907～10頃	ガラス：斑文装飾、被せガラス、型吹き、エッチング
56	ドーム	シクラメン文花器	1903～14頃	ガラス：斑文装飾、型吹き、エッチング、エナメル彩
57	ドーム	クロッカス文花器	1904～14頃	ガラス：斑文装飾、被せガラス、型吹き、エッチング、エングレーヴィング
58	ドーム	風景文花器	1910～14頃	ガラス：斑文装飾、型吹き、エッチング、エナメル彩
59	ドーム	雪に樹木文花器	1900～07頃	ガラス：斑文装飾、型吹き、エッチング、エナメル彩
60	ドーム	雪に樹木文花器	1900～07頃	ガラス：斑文装飾、型吹き、エッチング、エナメル彩
61	ドーム	雪に樹木文花器	1900～07頃	ガラス：斑文装飾、型吹き、エッチング、エナメル彩
62	ドーム	孔雀文花器	1914頃	ガラス：斑文装飾、被せガラス、エッチング、色ガラス溶着
63	ドーム	野菊文花器	1900～10頃	ガラス：斑文装飾、被せガラス、エッチング、カボション
64	ドーム	蝶文蓋	1910頃	ガラス：パート・ド・ヴェール
65	ドーム	昆虫文蓋物	1910年代	ガラス：パート・ド・ヴェール
66	ヴィクトール・アマリック・ヴァルテール	置物・青い鳥	1920年代	ガラス：パート・ド・ヴェール
67	ミュレル兄弟	鉄枠付コンポート	1920年代	ガラス、鉄：斑文装飾
68	ミュレル兄弟	花文花器	1910頃	ガラス：被せガラス、金属箔封入、型吹き、エッチング
69	ドームとルイ・マジヨレル	鉄枠吹込花器	1922頃	ガラス：斑文装飾、金属箔封入、鉄枠吹込み
70	ミュレル兄弟	ランプ	1920頃	ガラス、鉄：斑文装飾

◆ガレ没後の工房

1904年、病のためこの世を去ったガレの遺志を継承したのは、妻のアンリエット・ガレ＝グリムら遺族と、生前からの協力者たちでした。ガレ工房の工場では、やや類型的ながらも、ブランドとしての高いデザイン性を維持した優美なガラス器が数多く生産され、ガレ (gallé) の名が刻まれました。

工場における大量生産は、ガレの没後に開始されたわけではなく、1880年代の終わり頃からガレ自らが取り組んだものでし

た。博覧会や展覧会で発表する1点ものの作品とは工程を差別化し、同様のデザインの普及品を人々に届けるため、積極的に行なった方法だったのです。

その後、ガレ工房は世界恐慌のあおりを受け、1931年に工場の操業を停止するまで制作をつづけました。自然の観察に基づく草花のモチーフをあしらったガラス器のうちに、ガレの精神は今もなお息づいています。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
71	ガレ工房	草花文ランプ	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
72	ガレ工房	こぶし文扁壺	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
73	ガレ工房	スイセン文花器	1906～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
74	ガレ工房	湖水風景文花器	1920年代	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
75	ガレ工房	湖水風景文花器	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
76	ガレ工房	プラム文花器	1925～30頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
77	ガレ工房	ラズベリー文皿	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
78	ガレ工房	木の実文花器	1920年代	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
79	ガレ工房	朝顔文花器	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
80	ガレ工房	花文花器	1925～30頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
81	ガレ工房	けし文杯	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
82	ガレ工房	花に蝶文蓋物	1910頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
83	ガレ工房	洋蘭文花器	1906～14	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
84	ガレ工房	風景文花器	1905～10頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
85	ガレ工房	風景文舟形花器	1918～31頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
86	ガレ工房	風景文花器	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
87	ガレ工房	草花文花器	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
88	ガレ工房	草花文花器	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
89	ガレ工房	朝顔文花器	1904～14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング

特別展示 (2月5日～2月23日まで展示)

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
1	アメデオ・モディリアーニ	フジタの肖像	1919	鉛筆・紙